

# 第1回 苫小牧市環境審議会（書面開催） 環境白書（令和元年度版）報告書

## 第1章「苫小牧市の概要」

○苫小牧市の地勢・気象、歴史等を記載・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～4

## 第2章「環境行政の概要」

○苫小牧市の環境行政における組織及び予算を記載・・・・・・・・・・5～7

○苫小牧市役所の環境に関する5つの取組みを記載・・・・・・・・・・8～13

- ・苫小牧市役所エコオフィspran
- ・グリーン購入の取組み
- ・公共工事環境配慮
- ・住宅用新・省エネルギーシステム補助事業
- ・環境学習・啓発事業

### ＜住宅用新・省エネルギーシステム補助事業の詳細説明＞

地球温暖化対策として、住宅に太陽光発電システムを設置する市民にその費用の一部を補助する制度として平成21年度から事業を展開し、平成28年度よりCO2削減効果の高い省エネ給湯暖房システムのエコキュート、エコジョーズ、エコフィールの3機種を対象品目として追加し、平成30年度よりこの3機種の既存住宅の補助を増額した。太陽光発電システムは平成25年度をピークに減少傾向にあるが、3機種を追加したことにより補助件数は年々増加し、平成30年度の補助件数は361件となっている。

○苫小牧市の環境に関する5つの審議会などの内容と名簿を記載・・・・・・・・14～18

## 第3章「環境の現況と対策」

○大気・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19～42

大気汚染物質測定結果について、環境基準達成状況は「光化学オキシダント」が環境基準未達成となった。本項目は例年、全国的に環境基準が達成されていない状況であり、平成30年度は全国1,183地点中1地点のみ達成した。光化学オキシダントとは、自動車や工場等からの排ガスに含まれる成分が太陽の紫外線により光化学反応を起こしてオゾンなどを発生させるもので、特に日差しが強く風の弱い日に発生しやすい傾向にある。本市で行っている常時監視測定結果から上昇の原因を予測すると、オキシダントとPM2.5の測定値が同じ挙動を示す（市内のPM2.5は全て同じ挙動を示す）ことや、測定値が高くなる時には全道的に上昇することなどから、局所的な発生源が影響しているとは考えにくく、自然現象（季

節風によるオゾン層の沈降) や越境汚染が要因であると考えられる。光化学オキシダント以外の項目については全て環境基準に適合している。直近の測定結果は市 HP「苫小牧市の大気環境」でリアルタイムに閲覧可能(22 ページに QR コードを掲載)。

有害大気汚染物質測定結果については、環境基準または指針値が設定されている物質について、全て環境基準値未満または指針値未満の結果となった。

#### ○水質・・ 43～62

河川や海域の水質調査は所管の北海道が実施。市では新千歳空港からの排水の影響を監視する目的で美々川水系 4 地点の調査を実施。水質の環境基準は、汚れの度合いを示す BOD 及び COD や、健康項目で評価する。河川は全ての地点で BOD の環境基準を達成。経年変化では季節や天候などによる若干の変動はあるがおおむね横ばい。

海域は 1 地点(苫小牧海域(6))で COD の環境基準未達成(57 ページ)。環境基準 3.0 に対し 3.2 で超過している。有害物質(60 ページ)は定量下限値未満で、ほとんど検出されていない状況。

#### ○騒音・振動・・ 63～69

毎年「環境騒音」、「自動車騒音及び振動」、「航空機騒音」の測定を実施。自動車騒音の一部を除き環境基準等を達成(65 ページ)。地点 A、C、D が環境基準をクリアできず、そのうち地点 A では要請限度を超過。騒音規制法では、「道路の周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められるときには、公安委員会に対し措置を執ることを要請する」となっており、現在、生活環境が著しく損なわれているという状況ではないが、測定結果は警察や道路管理者など関係機関に通知している。

航空機騒音の状況(68 ページ)は、市が 5 局、北海道が 9 局で常時測定した結果であり、全ての地点で環境基準 62dB 以下を達成。

#### ○悪臭・・ 70～72

最も厳しい濃度で悪臭物質 22 物質を市内全域で規制。毎年、発生源となる事業所周辺のパトロールを行い、臭気を強く感じた事業所で測定を実施。平成 30 年度は肥料製造を行っている事業所で一部悪臭物質の規制基準超過が見られたことから、是正措置について指導を実施。

#### ○公害苦情・・ 73～74

主に物を燃やしたときの煙や工事現場の騒音・振動、事業場からの悪臭などに関

する相談が寄せられた。市では現地調査のうえ必要に応じて発生源者への指導を実施している。平成30年度の件数は35件で前年度より3件増加。

#### 第4章「苫小牧市環境基本計画」

○環境基本計画の概要を記載・・・・・・・・・・・・・・・・・・107～111

○目標達成の指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・112～114

計画の推進により目標がどの程度達成されたか、また、苫小牧市環境基本条例における基本理念、並びに方針がどの程度実現されているかを把握する方法として、数値による定量目標と苫小牧市総合計画策定に向けた市民意識調査結果を進捗状況の指標としている。

目標達成の指標のうち、市民意識調査結果の満足度による指標は、次期総合計画改定に向けた市民意識調査結果満足度との比較となるため現時点で示せないが、その他の指標に関する進捗状況は以下のとおり。

##### 《安全安心快適なまち》

大気汚染常時監視－光化学オキシダントが未達成。その他の項目については環境基準を達成。

河川の水質測定－市実施の美々川調査3地点、北海道実施の10河川計19地点の水質測定では、全ての測定地点で環境基準を達成。

海域の水質測定－生活環境項目は25地点中1地点で未達成。健康項目は全てで環境基準達成。

環境騒音測定－市内6地点全てで環境基準達成。

自動車騒音測定－市内7地点中4地点で環境基準達成、3地点で未達成。

航空機騒音常時監視－道局・市局合わせて14局全てで環境基準を達成。

道路交通振動測定－市内7地点全て要請限度を達成。

悪臭に係る立入調査－延べ4事業所の測定を行い基準超過が1件。

##### 《人と自然が共生するまち》

各小学校における「自然ふれあい教室」及び「いのちの授業」の実施回数、人数－実施回数目標値60回に対し35回、人数目標値2,200人に対し2,151人。

##### 《資源を大切にするまち》

1人1日当たりの家庭ごみ排出量－目標値525gに対し542g。

事業系ごみ排出量－目標値21,700tに対し22,836t。

リサイクル率－目標値32.5%に対し31.4%。

《みんなで環境に取り組むまち》

環境基本計画推進会議事業参加者数—目標値年間 100 名に対し 161 名。

《地球環境にやさしいまち》

本市のエネルギー消費量は 2015 年度 61,369TJ となっており、基準年度比 2.4% の増加。部門別では産業部門、家庭部門が増加。増加の原因は製造品出荷額増や世帯数の増加などが考えられる。最新の市実績が 2015 年度と遅れる理由は、エネルギー消費量は国が公表する統計資料を用い算定しており、公表時期が 2 年半程度遅れることによる。

○施策の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115～131

計画を推進するにあたり、分野ごとに基本目標、基本施策、市、事業者、市民の各主体別に具体的な取組を設定している。そのうち市の行動は 62 項目あり、市各担当課が市の行動に基づいた取組を行っており。各担当課での施策評価は 62 項目の内 59 項目が目標に到達しており、残りの 3 項目がほぼ目標に達している。

○協働による計画の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132～133

市、事業者及び市民で構成する環境基本計画推進会議での計画の推進の取り組み。会議を 3 回、5 つの事業を開催しており、5 事業への参加者は 161 名。

○資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135～177

基準や協定企業、市の取組年表を記載。